

広報 ちゅうざん



7月号

2006.7.1 発行

ちゅうざん病院

〒904 - 2151

沖縄市松本6丁目2番地1号

電話: 982 - 1346

FAX: 982 - 1347

7月号 目次

医療制度改革と自己負担増の流れ (2頁)

自助具について知ろう!! (3頁)

人とうまく付き合っていくための心理技法 (4頁)

新入職員の紹介 (5頁)

平成18年5月の入退院状況 (6頁)

医療制度改革と自己負担増の流れ

ちゅうざん病院 理事長/院長 今村 義典

4月の診療報酬改正に続き、ニュース等で既に御存知のように、6月14日には医療制度改革関連法が成立しました。

医療費の抑制策として、高齢者の自己負担を大幅に引き上げるのが特徴です。具体的数値は、何れ公示されますので、ここでは触れません。

自己負担の高くなる皆さんも大変ですが、制度が変わる毎に対応しなければならない病院・医院も大変です。また、改革は、次の世代にプラスになるのかマイナスになるのかをしっかりと見据えて対応することも大事です。

しかし、現実の問題として意識しなければならないことは、現在、長期入院の患者さんの在宅復帰又は施設転出を説明していますが、長期入院の療養病床の入院費も、調理コストや居住費が10月から保険適用から外され、自己負担が大幅にアップします。

医療費は、医療に関わる技術・薬剤・機器類に対する対価として支払う義務がありますが、非常に高額になるために保険という相互扶助で補填されているのが医療保険制度であります。しかし、衣食住のように生活に関わる費用は、健康な人も病人であっても平等に負担をするのが当然なことと思います。

制度は、それなりの社会性を持って制定されますので、制度が変わることは、慣れた状態から変更されることに対する抵抗はありますが、必ずしも間違っているものでもありません。

制度を変更することは、根拠に基づいて策定されているようです。負担増が問題であれば、その根拠を示して反論しなければなりません。ただ、反対だ！高齢者や病人は弱者であるから反対だけでは変わることはありません。

このように、負担が増えることは、私達が自己責任において対策を考える必要があります。全ての病気やケガが自分の責任だけで避けられるものではありませんが、生活様式の変化にともなう生活習慣が原因で高血圧・脳卒中・糖尿病・心臓病・ガンなどが非常に増えたことは、医学的社会問題になっています。

皆さんは、自己責任において病気にならないための努力はされていますか？メタボリックシンドロームといわれるような生活の油断はありませんか？

口で言うは易しですが、医療費や入院費を上げない努力、つまり病気にかからない、長期入院をしない工夫が国民全体の問題として個人に課せられている時代かと考えられます。5年後に約23万床の病院の療養ベッドを減らす国の方針は、つまり58万人の入院を15万人に病人を減らすことでもある訳です。

定期的検診等を受け病気の予防に気をつけることは自分自身の責任です。

自助具について知ろう!!

作業療法士 高橋景奈

Q1:自助具とは何か知っていますか？

A :身の回りの事が出来ない人に対して助ける道具の事を自助具といいます。

Q2:片手で入れ歯を洗う事が難しいのですが、どのようにしたらいいですか？

A :ブラシに吸盤がついていて、洗面台に固定出来る物が良いでしょう。固定されている事で片手でも簡単に洗う事が可能になります。



Q3:片手で背中が洗いにくいのですが、どうしたらいいですか？

A :この洗体タオルは2枚の垢すりを輪になるように縫い付けてあります。体型に合わせて輪の大きさを調整でき、片手では洗いにくい背中、非麻痺側の腕や脇の下も洗う事が出来ます。



他にもたくさんの役立つ自助具がありますので、何か困った事が御座いましたら、お近くのリハスタッフまで声をおかけ下さい。

人と うまく付き合っていくための 心理技法

臨床心理士 崎浜海里

脳血管障害や頭部外傷などで脳に損傷をうけたとき、みる・聞く・話す・注意する・モノを覚える・考えるなどの能力の低下を生じます。これに心理社会的問題(下記参照)をあわせ、「高次脳機能障害」と定義されるようになりました。高次脳機能障害によって生じる「困ったこと」は多種多様にあります。なかでも、大切な他者との関係を築いていく作業が困難となっていることがあります(家族として;同僚として;友人として;恋人としての良い関係を継続できない)。たとえば、怒りっぽくなったり、自己中心的で融通がきかなくなったり、会話の中で脱線が多かったり、場にそぐわない発言をしたり、表情や声の調子が表現に乏しい、相槌がうてない、話にはいれない など、適切なコミュニケーションの方法を欠いてしまうことがあります。そのために集団から孤立してしまったり、周囲がそれを問題として抱えねばならなくなったりすることもしばしばあるでしょう。それは個人によって様々です。全くみられないかたもいるかもしれません。なぜ、今まで自然にできていたことが困難となってしまったのでしょうか。大切な他者との関係を築いていく技術(スキル)とは、私たちが生をうけてから時間をかけて自然に、周囲の養育的な関わりによって得ることができたものです。しかし、脳の損傷によって、感情を統制することや周囲の状況を認識すること、相手を敬って慕うこと、必要な場面で必要な話し方・身振りをする...が困難となってしまうのです。

心理療法の技術のなかに、SST(Social Skills Training:対人関係技能訓練)というものがあります。この技法は心理士と患者さんのマンツーマンでも可能ですが、基本的には患者グループで行います。SSTで行なうことは、本来あったはずの(又はこれまで獲得していない)生活技能(もしくは対人関係技能)を再教育することといえます。たとえば、相手の話をきくこと、自分の意見を話すこと、相手の意見を受け入れること、誘いを断ること、相槌を打ったり、質問したりすること、などが含まれます。これは、**信頼できる他者との関係性を構築して初めて獲得することができます**。そのために「集団」である必要があるのです。心理教育も同様に、安心できる他者との関係性のなかで、社会人としてのマナーや物事に対する考え方、自分や他者との関係性などを学び、洞察力を磨いていきます。

近日、当院では、若くして障害をもってしまったけれども、就労や社会参加を目指している方を対象にした通院プログラムの施行を予定しています。就労支援チーム員でもある様々な職種が社会参加を目標にした治療に携わります。上で述べた SSTもこのプログラムに組み込まれており、患者さんやご家族が「困った」と感じることへの対処法をみんなで学んでいきます。SSTを行なううえで、私たち心理士は、彼らの自主性を尊重し、活かし、最大限に彼らの能力を活かせるお手伝いができればと考えています。

新入職員を紹介

正看護師

佐藤 真紀子
兼元 文子
仲本 善人
永村 麻衣子
加藤 綾美
諸喜田 愛
伊波 朱李
梶原 智恵子
鈴木 綾子
ニュネズペレズ珠美
大城 健
照屋 葉子

准看護師

島袋 美雪
マコーイ 秀美

ケアワーカー

石川 美乃
川口 佳子
宮平 園子
比嘉 栄子
長嶺 茜

介護福祉士

仲村 優也

前當 昌樹
比嘉 信明
仲真 周
親川 佳晃
村山 盛敦
木内 美香
宮國 すみえ
上里 歌織
大城 航
仲宗根 由利香
安仁屋 真子
内間 いずみ
大田 真美
羽柴 祐伺

薬剤師

片平 聖子

理学療法士

村井 直人
石川 大輔
金城 栄典
盛 俊光
照屋 杏里
諸見里 美香
儀間 怜子
知念 優子

金城 理香
中曽根 悦二
河原 睦枝

作業療法士

伊礼 祐倉
喜友名 彩
坂元 佑希子
多良間 真高
宮平 なつ子
比嘉 聡子
前川 友希
小寺 巨隆
石川 貴恵
川上 仁子

言語聴覚士

饒村 舞
稲福 茜
鈴木 知詩
阿部 信之
佐久川 彩乃

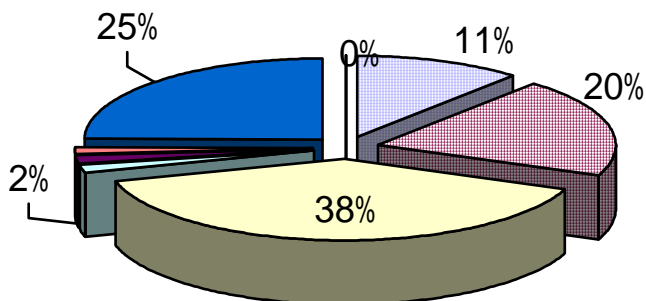
臨床心理士

平良 美枝子

よろしくお願ひします。

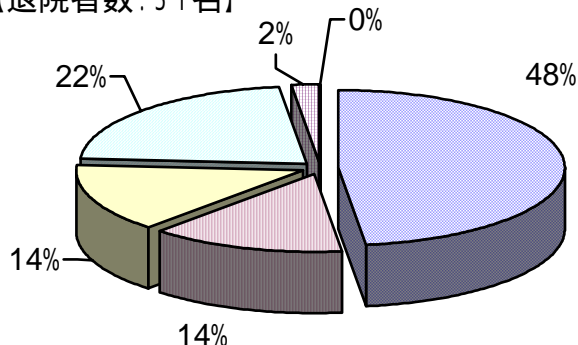
【平成18年5月 入退院状況】

【入院患者数：60名】



- 公立病院等(北部)
- 民間病院
- 施設
- 自宅
- 公立病院等(中部)
- 大学病院
- クリニック・医院
- その他

【退院者数：51名】



- 自宅
- 施設入所
- 死亡
- 転院
- ショートステイ
- 宅老所

～ 7月の予定～

- 1日 4B病棟が、療養病棟から回復期病棟へ移行
- 10～14日 山内中学校 職場体験学習
- 28日 勉強会 - 問題解決技法

広報 ちゅうざん (2006年 第7号) 発行:ちゅうざん病院 広報委員会
2006年7月1日発行(毎月1回1日発行)

編集委員:鈴木知詩